

本科 2 期 9 月度

解答

Z会東大進学教室

難関大物理 / 難関大物理 T



## 14章 コンデンサー回路

### 問題

#### ■演習

#### 【1】

#### 《解答》

コンデンサー  $C_1$ ,  $C_2$  の電気容量をそれぞれ  $C_1 = 2.0\mu\text{F}$ ,  $C_2 = 4.0\mu\text{F}$ , 抵抗  $R_1$ ,  $R_2$  の抵抗値をそれぞれ  $R_1 = 8.0\Omega$ ,  $R_2 = 10\Omega$ , 電池 E の起電力を  $E = 24\text{V}$ , 内部抵抗を  $r = 2.0\Omega$  とする.

- (1) スイッチ  $S_1$  を閉じて十分に時間が経過してコンデンサーに電荷が蓄えられると, 電流はコンデンサー部分を流れないので, 電池 E を流れる電流を  $I [\text{A}]$  とすると,  $G \rightarrow C \rightarrow A \rightarrow D \rightarrow G$  閉回路においてキルヒホッフの第 2 法則より

$$E - rI - R_1I - R_2I = 0$$
$$\therefore 24 - 2.0I - 8.0I - 10I = 0 \quad \therefore I = \underline{1.2\text{A}}$$

- (2) A, B の電位をそれぞれ  $V_A [\text{V}]$ ,  $V_B [\text{V}]$  とすると, G は接地しているので  $0\text{V}$  であるから,  $D \rightarrow A$  で電位は上がって

$$V_A = R_2I = 10 \times 1.2 = \underline{12\text{V}}$$

また, CD 間の電位差を  $V_{\text{CD}} [\text{V}]$  とすると

$$V_{\text{CD}} = R_1I + R_2I = 8.0 \times 1.2 + 10 \times 1.2 = 21.6\text{V}$$

であり, コンデンサー  $C_1$ ,  $C_2$  に蓄えられている電荷は等しいので, その電荷を  $Q [\mu\text{C}]$  とすると

$$V_{\text{CD}} = \frac{Q}{C_1} + \frac{Q}{C_2} = \frac{Q}{2.0} + \frac{Q}{4.0} = 21.6 \quad \therefore Q = 28.8\mu\text{C}$$

よって

$$V_B = \frac{Q}{C_2} = \frac{28.8}{4.0} = \underline{7.2\text{V}}$$

- (3) (2) より, コンデンサー  $C_1$  に蓄えられる電荷は

$$Q = 28.8\mu\text{C} \doteq \underline{2.9 \times 10^{-5}\text{C}}$$

- (4) スイッチ  $S_2$  を閉じて、十分に時間が経過すると、電流はコンデンサー部分を流れないので、 $G \rightarrow C \rightarrow A \rightarrow D \rightarrow G$  閉回路に流れる電流は  $I = 1.2A$  であるから、コンデンサー  $C_1$ 、 $C_2$  に蓄えられる電荷をそれぞれ  $Q_1 [\mu C]$ 、 $Q_2 [\mu C]$  とすると、 $R_1$ 、 $C_1$  を含む閉回路においてキルヒホッフの第 2 法則より

$$\frac{Q_1}{C_1} - R_1 I = \frac{Q_1}{2.0} - 8.0 \times 1.2 = 0 \quad \therefore Q_1 = 19.2 \mu C \doteq \underline{1.9 \times 10^{-5} C}$$

また、 $R_2$ 、 $C_2$  を含む閉回路においてキルヒホッフの第 2 法則より

$$\frac{Q_2}{C_2} - R_2 I = \frac{Q_2}{4.0} - 10 \times 1.2 = 0 \quad \therefore Q_2 = 48 \mu C = \underline{4.8 \times 10^{-5} C}$$

- (5) コンデンサー  $C_1$ 、 $C_2$  の B 側に蓄えられる電荷の合計は、スイッチ  $S_2$  を閉じる前が

$$-Q + Q = -28.8 + 28.8 = 0 \mu C$$

スイッチ  $S_2$  を閉じた後が

$$-Q_1 + Q_2 = -19.2 + 48 = 28.8 \mu C$$

であるから、 $28.8 \mu C \doteq \underline{2.9 \times 10^{-5} C}$  の正電荷が  $A \rightarrow B$  に移動した。

**【2】**

**《解答》**

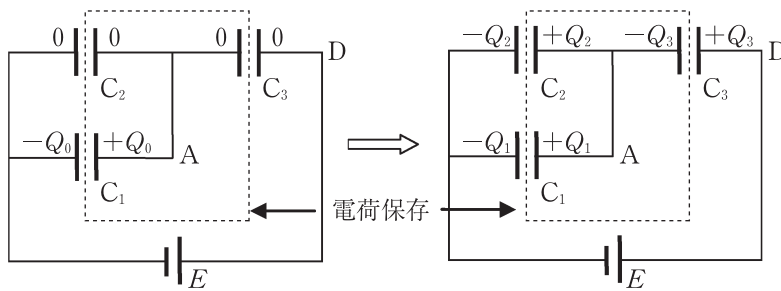
コンデンサー  $C_1$ ,  $C_2$ ,  $C_3$  の電気容量を  $C_1$  [F],  $C_2$  [F],  $C_3$  [F], 電池 E の電位差を  $E$  [V] とする.

- (1) コンデンサー  $C_1$  が電池 E の電位差で充電されるから, 求める電荷および静電エネルギーを  $Q_0$ ,  $U_0$  とすると

$$Q_0 = C_1 E = 50 \times 10^{-6} \times 200 = \underline{1.0 \times 10^{-2} \text{C}},$$

$$U_0 = \frac{1}{2} C_1 E^2 = \frac{1}{2} \times 50 \times 10^{-6} \times 200^2 = \underline{1.0 \text{J}}$$

- (2) 図のように各コンデンサーの帯電量を設定する.



電荷保存より

$$\begin{aligned} (+Q_1) + (+Q_2) + (-Q_3) &= (+Q_0) + 0 + 0 \\ \therefore Q_1 + Q_2 - Q_3 &= 1.0 \times 10^{-2} \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$C_1$ ,  $C_2$  のコンデンサーを含む閉回路の回路方程式より

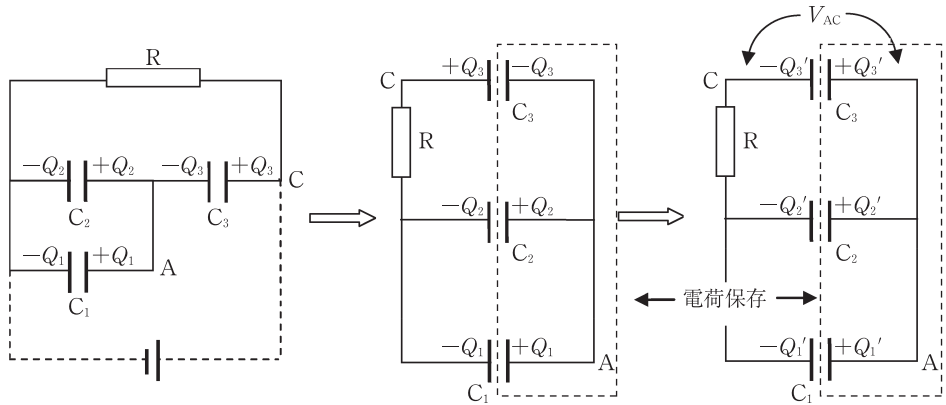
$$\frac{Q_1}{C_1} - \frac{Q_2}{C_2} = 0 \quad \therefore 2.0Q_1 - 5.0Q_2 = 0 \quad \dots \textcircled{2}$$

$C_2$ ,  $C_3$  のコンデンサーを含む閉回路の回路方程式より

$$E - \frac{Q_3}{C_3} - \frac{Q_2}{C_2} = 0 \quad \therefore 3.0Q_2 + 2.0Q_3 = 1.2 \times 10^{-2} \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2}\textcircled{3} \text{より} \quad Q_1 = \underline{8.0 \times 10^{-3} \text{C}}, \quad Q_2 = \underline{3.2 \times 10^{-3} \text{C}}, \quad Q_3 = \underline{1.2 \times 10^{-3} \text{C}}$$

(3) 図のように各コンデンサーの帯電量, AC 間の電位差を設定する.



電荷保存より

$$\begin{aligned}
 (+Q_1') + (+Q_2') + (+Q_3') &= (+Q_1) + (+Q_2) + (-Q_3) \\
 \therefore C_1 V_{AC} + C_2 V_{AC} + C_3 V_{AC} &= 1.0 \times 10^{-2} \\
 \therefore (50 \times 10^{-6} + 20 \times 10^{-6} + 30 \times 10^{-6}) \times V_{AC} &= 1.0 \times 10^{-2} \\
 \therefore V_{AC} &= \underline{1.0 \times 10^2 \text{V}}
 \end{aligned}$$

電荷の移動によって抵抗 R に電流が流れ, ジュール熱が発生し, 回路のエネルギーが消費されるから, 抵抗 R に発生した熱量, つまり全静電エネルギーの減少量を求める.

$$\begin{aligned}
 &\text{全静電エネルギーの減少量} \\
 &= \left( \frac{Q_1^2}{2C_1} + \frac{Q_2^2}{2C_2} + \frac{Q_3^2}{2C_3} \right) - \left( \frac{1}{2} C_1 V_{AC}^2 + \frac{1}{2} C_2 V_{AC}^2 + \frac{1}{2} C_3 V_{AC}^2 \right) \\
 &= \frac{1}{2} \left\{ \frac{(8.0 \times 10^{-3})^2}{50 \times 10^{-6}} + \frac{(3.2 \times 10^{-3})^2}{20 \times 10^{-6}} + \frac{(1.2 \times 10^{-3})^2}{30 \times 10^{-6}} \right\} \\
 &\quad - \frac{1}{2} \times (50 + 20 + 30) \times 10^{-6} \times (1.0 \times 10^2)^2 \\
 &= 0.92 - 0.50 = 0.42 \text{J} = \frac{0.42}{4.2} \text{cal} = \underline{0.10 \text{cal}}
 \end{aligned}$$

## 添削課題

《解答》

ア  $0$  [C]

イ 直流電源の電圧がすべて抵抗にかかるから  $\frac{V}{R}$  [A]

ウ コンデンサー 1 の充電が完了すると回路に電流は流れないから  $0$  [A]

エ 直流電源の電圧がすべてコンデンサー 1 にかかるから  $CV$  [C]

オ 求める静電エネルギーを  $U$  [J] とすると  $U = \frac{1}{2}CV^2$  [J]

カ コンデンサー 1 の電荷を  $Q_1$  [C], コンデンサー 2 の電荷を  $Q_2$  [C], 求める電位差を  $V'$  [V] とすると電荷保存より

$$Q_1 + Q_2 = CV' + 2CV' = CV \quad \therefore V' = \frac{1}{3}V$$
 [V]

キ  $Q_1 = CV' = C \cdot \frac{1}{3}V = \frac{1}{3}CV$  [C]

ク  $Q_2 = 2CV' = 2C \cdot \frac{1}{3}V = \frac{2}{3}CV$  [C]

■別解 カ ~ ク

コンデンサー 1 に蓄えられていた電荷  $CV$  [C] が容量の比に分配されるから

$$Q_1 = CV \times \frac{1}{3} = \frac{1}{3}CV$$
 [C],  $Q_2 = CV \times \frac{2}{3} = \frac{2}{3}CV$  [C]

$$Q_1 = \frac{1}{3}CV = CV' \quad \therefore V' = \frac{1}{3}V$$
 [V]

ケ 求める静電エネルギーを  $U'$  [J] とすると

$$U' = \frac{1}{2} \cdot C \cdot \left(\frac{1}{3}V\right)^2 + \frac{1}{2} \cdot 2C \cdot \left(\frac{1}{3}V\right)^2 = \frac{1}{6}CV^2$$
 [J]

■別解 ケ

合成容量を用いると  $U' = \frac{1}{2} \cdot (C + 2C) \cdot \left(\frac{1}{3}V\right)^2 = \frac{1}{6}CV^2$  [J]

コ 静電エネルギーの減少分が抵抗でジュール熱として放出されるから

$$Q = U - U' = \frac{1}{2}CV^2 - \frac{1}{6}CV^2 = \frac{1}{3}CV^2$$
 [J]

配点

各 10 点

# 15章 非オーム抵抗

## 問題

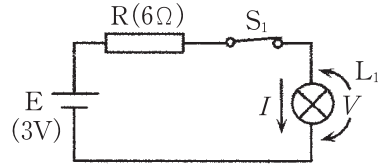
### ■演習

【1】

《解答》

(1) キルヒホッフの第2法則より

$$\underline{3 - 6I - V = 0}$$

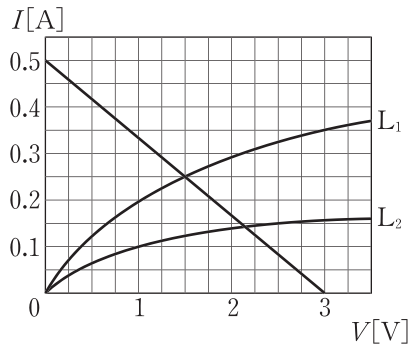


(2)  $3 - 6I - V = 0$  より

$$I = -\frac{1}{6}V + 0.5$$

グラフの交点の座標から

$$I = \underline{0.25A}$$

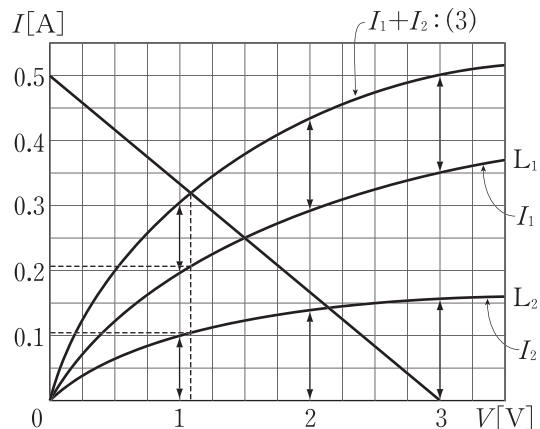
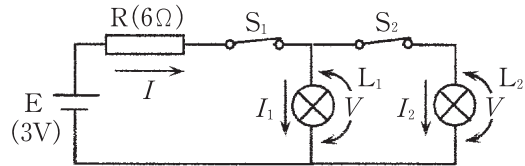


(3) (4)  $L_1, L_2$  に流れる電流をそれぞれ  $I_1, I_2$  とすると、キルヒホッフの第1法則より、 $I = I_1 + I_2$ 。よって、同じ電圧における  $L_1$  と  $L_2$  の電流の値を加えて  $I$  のグラフを描けばよい。

さらに、(4) においてもキルヒホッフの第2法則  $I = -\frac{1}{6}V + 0.5$  が成り立つので、 $I = -\frac{1}{6}V + 0.5$  と  $I_1 + I_2$  のグラフの交点の電圧における  $L_1$  と  $L_2$  の電流の値を読んで

$$L_1: I_1 = \underline{0.21A}$$

$$L_2: I_2 = \underline{0.11A}$$



【2】

《解答》

- (1) 電源は A 側が高電位であるから、 $D_1$  部分は図の上から下に電流が流れ、 $D_2$  部分は流れない。また、 $S_1$  を閉じて  $S_2$  を開いたので抵抗  $R_1$ 、 $R_2$  には電流は流れない。よって、 $D_1$  に電源電圧  $0.6V$  すべてがかかるから、図 2 より、 $D_1$  に流れる電流は  $0.3A$  であることがわかる。

$D_1$  に流れる電流を  $I_1$  [A]、かかる電圧を  $V_1$  [V]、このときの抵抗値を  $R_1$  [ $\Omega$ ]、消費電力を  $P_1$  [W] とすると、

$$P_1 = I_1^2 R_1 = I_1 V_1 = 0.3 \times 0.6 = \underline{0.18W}$$

- (2)  $D_2$  には電流が流れないので  $0A$ 、消費電力は  $0W$

- (3)  $D_1$  に流れる電流を  $I$  [A]、 $D_1$  の両端にかかる電圧を  $V$  [V] とすると、キルヒホッフの第 2 法則より

$$2 - 2I - V = 0 \quad \therefore I = -\frac{1}{2}V + 1.0$$

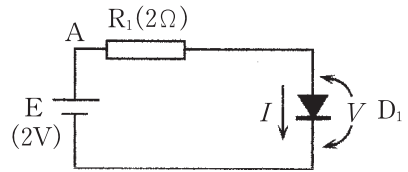
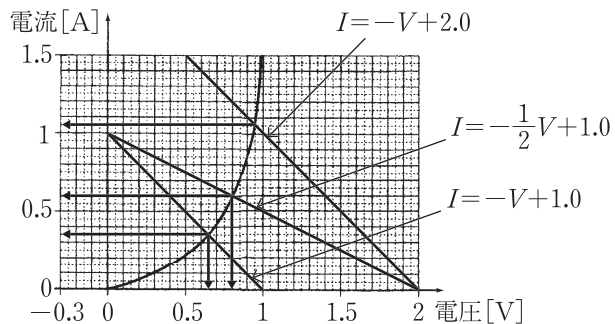


図 2 のグラフとの交点より

$$I = \underline{0.6A}, V = \underline{0.8V}$$





- (4)  $D_1$  に流れる電流を  $I$  [A],  $D_1$  の両端にかかる電圧を  $V$  [V] とすると,  $R_2$  の両端にかかる電圧も  $V$  [V] であり,  $R_2$  に流れる電流は  $\frac{V}{2}$  [A], キルヒホッフの第 1 法則より  $R_1$  に流れる電流は  $I + \frac{V}{2}$  [A] であるから, キルヒホッフの第 2 法則より

$$2 - 2 \left( I + \frac{1}{2}V \right) - V = 0 \quad \therefore I = -V + 1.0$$

図 2 のグラフとの交点より

$$I = \underline{0.35A}$$

- (5) (4) より,  $V=0.65V$  より  $R_2$  に流れる電流は

$$\frac{V}{2} = \underline{0.325A}$$

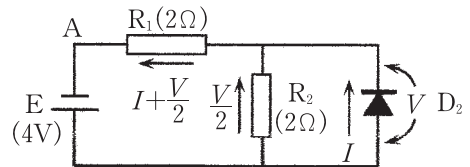
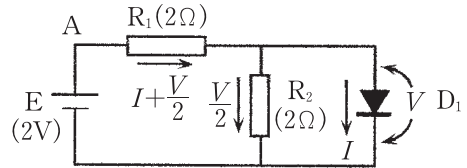
- (6) 電源は A 側が低電位であるから,  $D_1$  部分は電流が流れず,  $D_2$  部分は図の下から上に電流が流れる.  $D_2$  に流れる電流を  $I$  [A],  $D_2$  の両端にかかる電圧を  $V$  [V] とすると,  $R_2$  の両端にかかる電圧も  $V$  [V] であり,  $R_2$  に流れる電流は  $\frac{V}{2}$  [A], キルヒホッフの第 1 法則より  $R_1$  に流れる電流は  $I + \frac{V}{2}$  [A] であるから, キルヒホッフの第 2 法則より

$$4 - V - 2 \left( I + \frac{1}{2}V \right) = 0 \quad \therefore I = -V + 2.0$$

図 2 のグラフとの交点より

$$D_2 \text{ に流れる電流は } I = \underline{1.05A}$$

$$D_1 \text{ に流れる電流は } \underline{0A}$$



## 添削課題

### 《解答》

- (a) 1.  $S_1$  を閉じた直後, コンデンサーに蓄えられている電荷は 0 なので, 各コンデンサーの両端の電位差は 0 である. ループ①, ②で, 回路の方程式は

$$\textcircled{1} \quad R_3 I_3 + R_1 I_1 = E$$

$$\textcircled{2} \quad R_3 I_3 + R_2 I_2 = E$$

キルヒホッフの第 1 法則より

$$I_1 + I_2 = I_3$$

$$\therefore I_3 = \frac{(R_1 + R_2)E}{R_1 R_2 + R_2 R_3 + R_3 R_1} \quad (\Rightarrow 1)$$

- 2, 3. 十分時間が経過した後, コンデンサーに流れ込む電流は 0 となる. ループ③で

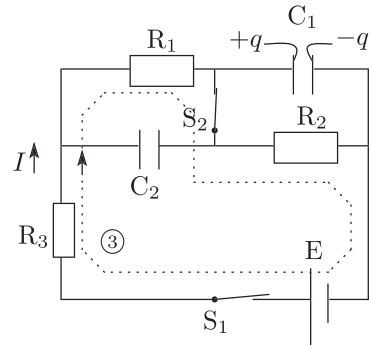
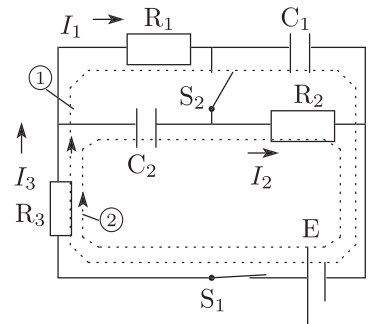
$$R_1 I + R_2 I + R_3 I = E$$

$$\therefore I = \frac{E}{R_1 + R_2 + R_3} \quad (\Rightarrow 3)$$

$C_1$  両端電位差 =  $R_2 I$  ゆえ

$$\frac{q}{C_1} = R_2 I$$

$$\therefore q = C_1 R_2 I = \frac{C_1 E R_2}{R_1 + R_2 + R_3} \quad (\Rightarrow 2)$$



- (b) 4. ダイオード両端電位差を  $v$ [V], 電流を  $I$ [mA] として

$$v[\text{V}] + 1.5 \times 10^3 [\Omega] \times I \times 10^{-3} [\text{A}] = 1.5 [\text{V}]$$

$$\therefore \frac{v[\text{V}]}{1.5[\text{V}]} + \frac{I[\text{mA}]}{1.0[\text{mA}]} = 1$$

$$\therefore \frac{v}{1.5} + \frac{I}{1.0} = 1$$

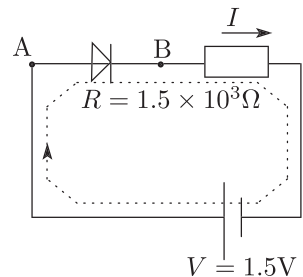
グラフの交点より (次ページ)

$$v = 0.60[\text{V}]$$

$$I = \underline{0.60}[\text{mA}]$$

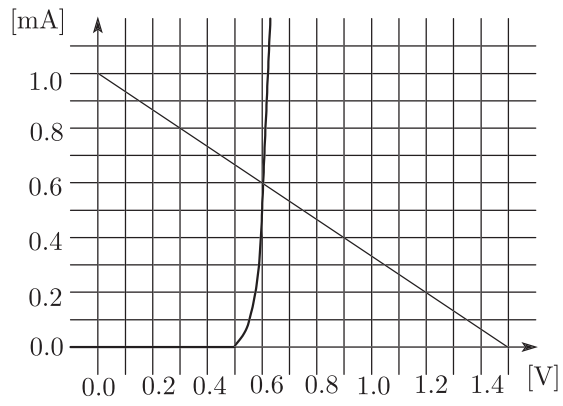
5. 抵抗にかかる電圧を  $v_R$ [V] として

$$v_R = RI = \underline{0.90}[\text{V}]$$



6. ダイオードの消費電力を  $P[\text{mW}]$  として

$$P = v \times I = \underline{0.36}[\text{mW}]$$



**配点**

(a)1. 20点, 2. 10点, 3. 20点 (b)4, 5. 各20点, 6. 10点

# 16章 電流が作る磁場

## 問題

### ■演習

【1】

《解答》

- (1) 図1で、片方の線路を流れる電流が架線の位置に作る磁界は

$$H_0 = \frac{I}{2\pi r}$$

よって、両方の線路を流れる電流が架線の位置に作る合成磁界は

$$\begin{aligned} H &= H_0 \cos \theta \times 2 \\ &= \frac{I}{4\pi r} \times \frac{h}{r} \times 2 = \frac{Ih}{2\pi(h^2 + d^2)} \end{aligned}$$

- (2) 架線が受ける電磁力は、図2のように、鉛直上向きに

$$F = \mu_0 I l H = \frac{\mu_0 I^2 l h}{2\pi(h^2 + d^2)}$$

- (3) 線路と架線を流れる電流が磁針の位置に作る合成磁界は、図3のように、西に向かつて

$$\begin{aligned} H' &= H_0' \sin \theta' \times 2 = \frac{I}{2\pi r'} \times \frac{h}{r'} \times 2 \\ &= \frac{Ih}{2\pi \left[ x^2 + \left( \frac{h}{2} \right)^2 \right]} \end{aligned}$$

- (4) 水平分力を  $H_E = 24[\text{A/m}]$  とすると、図4で

$$\begin{aligned} \tan \phi &= \frac{H'}{H_E} \\ &= \frac{Ih}{2\pi H_E \left[ x^2 + \left( \frac{h}{2} \right)^2 \right]} \\ &= \frac{300[\text{A}] \times 5.0[\text{m}]}{2\pi \times 24[\text{A/m}] \times \left[ 10^2 + \left( \frac{5.0}{2} \right)^2 \right] [\text{m}^2]} \\ &= \underline{0.094} \end{aligned}$$

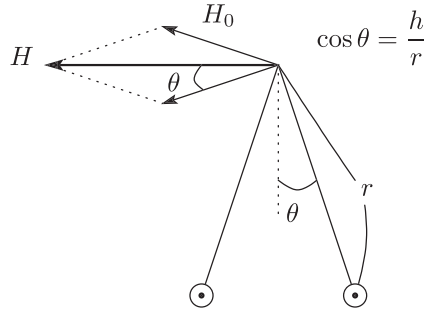


図1

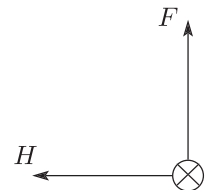


図2

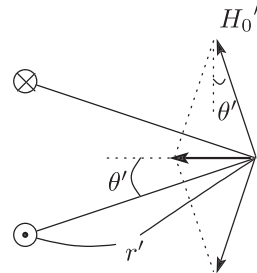


図3

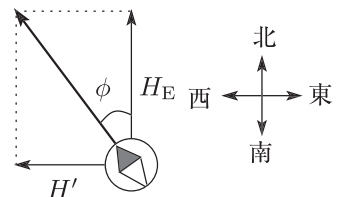


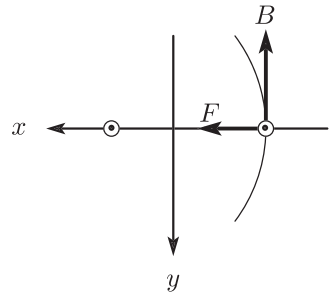
図4

【2】

《解答》

(1) A に流れる電流が点  $(-a, 0, 0)$  に作る磁束密度は

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{大きさ} \cdots B = \frac{\mu_0 I}{2\pi \cdot 2a} = \frac{\mu_0 I}{4\pi a} \\ \text{方向} \cdots \underline{-y \text{ 方向}} \end{array} \right.$$

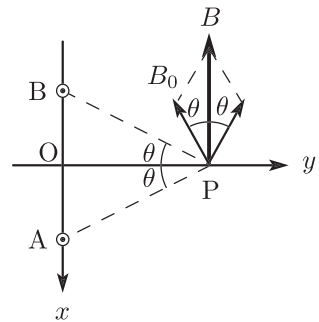


B の 1m 当たりに及ぼす力は

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{大きさ} \cdots F = IB = \frac{\mu_0 I^2}{4\pi a} \\ \text{方向} \cdots \underline{+x \text{ 方向}} \end{array} \right.$$

(2) A, B に流れる電流それぞれが点 P に作る磁束密度の大きさは等しく  $B_0 = \frac{\mu_0 I}{2\pi\sqrt{a^2 + y^2}}$  なので、ベクトル和は

$$B = B_0 \cos \theta \times 2 = \frac{\mu_0 I}{\pi\sqrt{a^2 + y^2}} \cdot \frac{y}{\sqrt{a^2 + y^2}}$$



これは  $-x$  方向を正として表したもののなので、磁束密度の各成分は

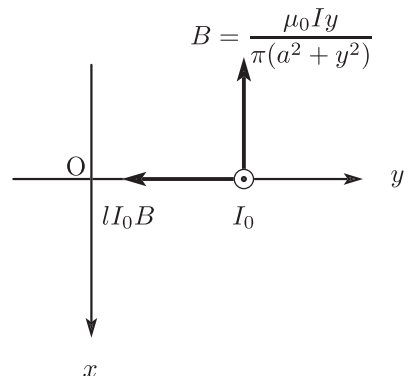
$$(B_x, B_y, B_z) = \left( -\frac{\mu_0 I y}{\pi(a^2 + y^2)}, 0, 0 \right)$$

(3) L が磁場から受ける力の  $y$  成分は

$$\begin{aligned} F_y &= -II_0 B \\ &= -\frac{\mu_0 II_0 l}{\pi} \cdot \frac{y}{a^2 + y^2} \end{aligned}$$

ここで、 $\frac{y}{a^2 + y^2}$  に注目すると

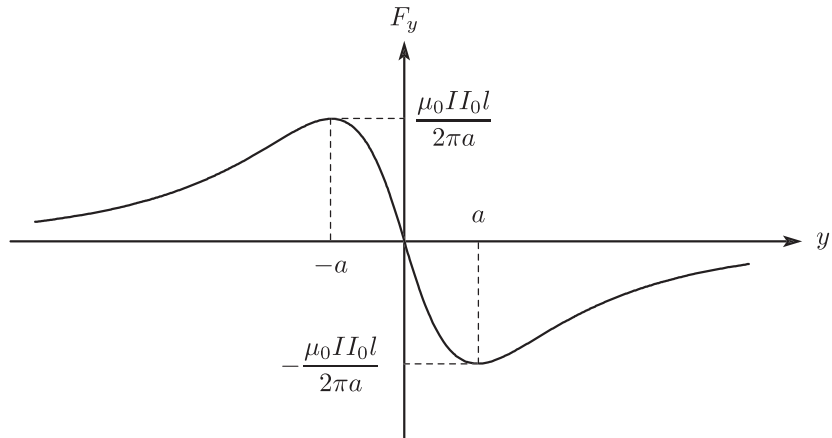
$$\left\{ \begin{array}{l} |y| \gg a \text{ のとき} \cdots \frac{y}{a^2 + y^2} \approx \frac{1}{y} \\ |y| \ll a \text{ のとき} \cdots \frac{y}{a^2 + y^2} \approx \frac{y}{a^2} \end{array} \right.$$



また、相加相乗平均の関係を用いて  $y \geq 0$  での最大値を求めることができ

$$\frac{y}{a^2 + y^2} = \frac{1}{\frac{a^2}{y} + y} \leq \frac{1}{2\sqrt{\left(\frac{a^2}{y}\right) \cdot y}} \quad \therefore \left(\frac{y}{a^2 + y^2}\right)_{\max} = \frac{1}{2a}$$

以上より、 $F_y$  の概略は下図のようになる。



(4) (3) より、 $|y| \ll a$  では

$$F_y \approx -\frac{\mu_0 I I_0 l}{\pi} \cdot \frac{y}{a^2}$$

よって、運動方程式の  $y$  成分は

$$M\ddot{y} = -\frac{\mu_0 I I_0 l}{\pi} \cdot \frac{y}{a^2} \quad \therefore \ddot{y} = -\frac{\mu_0 I I_0 l}{\pi M a^2} y$$

この単振動の周期は

$$T = 2\pi \sqrt{\frac{\pi M a^2}{\mu_0 I I_0 l}}$$

## 添削課題

### 《解答》

- (1) (a) B→A  
 (b) A→B  
 (c)  $i \cdot \frac{\mu_0 I}{2\pi L} \cdot a$   
 (d) 引力  
 (e)  $i \cdot \frac{\mu_0 I}{2\pi(L+a)} \cdot a$   
 (f) 斥力  
 (g) A→D 向きを正として, 合力  $F$  は

$$\begin{aligned} F &= -i \cdot \frac{\mu_0 I}{2\pi L} a + i \cdot \frac{\mu_0 I}{2\pi(L+a)} a \\ &= -\frac{\mu_0 a^2 i I}{2\pi L(L+a)} (< 0) \\ \therefore |F| &= \frac{\mu_0 a^2 i I}{2\pi L(L+a)} \end{aligned}$$

- (h) 引力

(2)

- (i) コイル内に生じる磁場の強さを  $H$ [A/m], 単位長さ当たりの巻き数を  $n$ , 流れる電流を  $I$ [A] とすると

$$H = nI = \frac{5.0 \times 10^2}{0.20} \times 2.0 = \underline{5.0 \times 10^3} \text{A/m}$$

- (j) 磁束密度を  $B$ , 真空の透磁率を  $\mu$  とおくと

$$B = \mu H = 4\pi \times 10^{-7} \times 5.0 \times 10^3 = 6.28 \times 10^{-3} \approx \underline{6.3 \times 10^{-3}} \text{Wb/m}^2$$

- (k) コイル内には B→A 向きの磁場があり, コの字形導線には, B→C 向きの電流が流れているので, フレミングの左手の法則より, 図の下の向き  
 (l) 電流が磁場から受ける電磁力の大きさを  $F$ [N] とおくと

$$F = IBl = 1.4 \times 6.28 \times 10^{-3} \times 4.0 \times 10^{-2} = \underline{3.5 \times 10^{-4}} \text{N}$$

### 配点

- (g) (l) 各 10 点      (g) (l) 以外 各 8 点



会員番号	
------	--

氏名	
----	--